

令和3年度事業計画

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(5)
3. 編集委員会	(5)
4. 学術委員会	(6)
5. 統計調査委員会	(7)
6. 専門医制度委員会	(8)
7. 国際学術交流委員会	(10)
8. 評議員選出委員会	(10)
9. 保険委員会	(11)
10. 倫理委員会	(11)
11. 腎不全総合対策委員会	(12)
12. 危機管理委員会	(13)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(13)
14. 男女共同参画推進委員会	(14)
15. 感染対策委員会	(15)

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第66回日本透析医学会学術集会・総会は、社会医療法人川島会川島病院 副院長 岡田一義会長が主宰し、2021年6月4日（金）、5日（土）、6日（日）の3日間、パシフィコ横浜を会場として開催する。

今回のテーマは「チームの俯瞰・発想・行動力～良質な医療とケアの発信～」を掲げて開催する。

<会長講演>

「良質な医療とケアを提供するコミュニケーションの実践」

<会長特別企画>

「わが国におけるオンライン HDF のエビデンス発信を目指して」、「日本専門医機構による透析専門医認定の現状と問題点」、「良質な医療とケアを提供する「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」の正しい理解と普及を目指して」

<招待講演>

Eric D. Weinhandl (Chronic Disease Research Group, Hennepin Healthcare Research Institute, USA/ Department of Pharmaceutical Care and Health Systems, University of Minnesota, USA), Christoph Wanner (University of Würzburg, Hospital, Division of Nephrology, Germany), Allan J. Collins (University of Minnesota, USA), Bernard Canaud (Montpellier University, School of Medicine, France/Teaching University Hospital, France/Global Medical Office, FMC Deutschland, Germany), Nilka Ríos Burrows (Centers for Disease Control and Prevention, Division of Diabetes Translation, USA)

<特別講演>

「医療技術とシステム（COVID-19 対策を含む）のグローバル展開」、「透析医療の政策提言（我が国の感染症対策、健康医療戦略等について）」、「これからの社会保障～2025年の先、2040年を見据えて～」、「虚血性心疾患を有する慢性腎不全症例に対する治療戦略」、「令和4年度診療報酬改定に向けて」、「COVID-19のこれまで、そしてこれから」、「透析患者の老化対策」、「腎臓病および透析関連合併症に対する AIM 創薬」、「透析の基礎理論と臨床工学」、「様々な立場から腎不全医療に関わる事で得られたもの～一人称で考えることの価値～」、「透析患者と共に歩む看護」、「わが国の透析医療の世界に向けた情報発信」、「チーム育成とコミュニケーションのコツ」、「未来を見据えた病院経営の在り方」、「オンライン HDF の到達点」

<教育講演 I >

「透析用水・透析排水の適正管理」、「腎性貧血診療指針」、「透析チーム医療指針と迷惑行為対策指針」、「透析室臨床倫理指針」、「末梢動脈疾患合併透析患者診療指針」、「糖尿病透析患者診療指針」、「在宅血液透析診療指針」、「腹膜透析診療指針 2021」、「腎移植診療指針」、「アクセス診療指針」、「CKD-MBD 診療指針」、「心疾患合併透析患者診療指針」、「透析治療モード選択指針」、「透析室感染症対策指針」、「透析患者の栄養管理」、「アフレスシス診療指針」、「生命予後を改善する透析患者総合管理指針」

<教育講演 II >

「血液透析患者における心血管合併症ガイドライン 2011～その後の進展～」、「オンライン HDF の有用性」、「長時間血液透析の効果」、「透析患者の C 型ウイルス肝炎治療ガイドライン 2011～その後の進展～」、「腹膜透析の長期継続を目指して」、「アクセストラブルの対処法」、「透析排水の適正管理」、「骨折のリスクと対策」、「透析患者の代謝異常 1」、「透析患者の代謝異常 2」、「透析患者の血管障害」、「多発性嚢胞腎の最前線」、「透析患者の栄養管理」、「血液浄化の最近の話題」、「透析患者の泌尿器科・外科管理」、「腎移植 up to date」、「トラブル防止のためのアクセス作製術」

<合同企画シンポジウム>

「透析患者における脳血管障害の予防と治療の特殊性」、「透析療法における計測と制御の技術利用」、「透析患者における経腸栄養と静脈栄養 up to date」、「療法選択と保存的腎臓療法選択における透析 profes-

sional のあり方], 「透析患者における認知症の予防と対策」, 「透析医・かかりつけ医・在宅医との連携」, 「透析患者における感染症対策 up to date」

<シンポジウム>

「腎性貧血治療薬の使い分け」, 「腹膜透析の新たな展開」, 「透析治療における人工膜が目指すべき到達点」, 「透析患者における運動療法」, 「透析領域における超音波検査 Up to date 2021」, 「透析療法における新技術の進歩とその期待」, 「エビデンスから見える急性血液浄化の効果」, 「先行的腎移植患者と献腎移植待機患者の現状と課題」, 「小児期透析医療と移行期の現状と課題」, 「透析の医療とケアにおける patient-reported outcomes による QOL 評価」, 「透析患者さんのかゆみと痛みをやわらげたい」, 「多職種で紡ぐ VAIVT」, 「要介護透析患者を支える看護と介護の連携」, 「最適な透析療法を目指して」, 「高齢患者・認知症患者におけるバスキュラーアクセス管理」, 「CKD-MBD と貧血のクロストーク」, 「過疎化地域における透析医療の課題とその対策」, 「透析患者における糖尿病合併症の重症化予防」, 「腎移植の現状と課題」, 「高齢透析患者の抱える諸問題への取り組み」, 「透析合併症対策の論点・争点と必要な解決策」, 「健康寿命を延ばすための保存期 CKD から維持透析期の栄養管理の在り方」, 「透析患者の炎症を科学する」, 「在宅腎不全治療普及のために克服すべき課題と展望 2021」, 「バスキュラーアクセス治療の潮流」, 「療法選択, 導入期, 維持期, 人生の最終段階におけるサイコネフロジー」, 「透析療法と OncoNephrology」, 「災害対策～東日本大震災 10 年を振り返って～」

<ワークショップ>

「新型コロナウイルス感染症と自然災害の複合災害に備える～透析療法の新たな形～」, 「透析患者における内分泌異常と心血管イベント・生命予後」, 「透析医療と artificial intelligence」, 「透析患者の暮らしを支えるケア」, 「末期腎不全患者における緩和ケアのあり方」, 「パンデミックにおける腎不全医療」, 「チーム医療から考える医療者働き方改革」, 「透析に関する共同意思決定とアドバンス・ケア・プランニングの実践」, 「透析患者における微量元素およびビタミンの異常と生命予後」, 「透析療法における遠隔診療のあり方」, 「認知症患者への支援」

<コメディカル透析セミナー>

「各種血液浄化の原理と特徴」, 「拡大する適正透析の概念」, 「透析中モニターの種類と特徴」, 「透析室の抜針対策」, 「透析室内ヒューマンエラーの根絶に向けて」, 「透析室タスク・シフト/シェア」, 「やりがいにつながる教育内容の工夫」, 「透析領域における臨床工学技士の人材育成～知識と技能における初期教育と生涯教育～」, 「透析患者の骨折予防管理」, 「エコーを用いたバスキュラーアクセス管理」, 「カテーテル管理のポイント」, 「透析患者のかゆみ対策」, 「糖尿病透析患者への支援」, 「療法選択と自己管理における心理的ケア」, 「共同意思決定の実践」, 「ACP の実際」, 「保存的腎臓療法と緩和ケア」, 「高齢透析患者の在宅支援」, 「血液透析患者における口腔疾患治療指針」, 「透析患者のフットケア」, 「認知症透析患者ケアのポイント」, 「精神疾患合併透析患者の支援」, 「透析患者における使用頻度の高い薬物の注意点」, 「透析患者の運動療法」, 「透析患者のサルコペニア・フレイル対策」, 「コメディカルが習得必要な心電図知識」, 「透析室スタッフが習得必要なシャントエコー技術」, 「県単位での腹膜透析普及への取り組み」, 「末期腎不全チーム医療」, 「透析患者のカーボカウントによる血糖コントロール」, 「在宅血液透析患者 (HomeHemoDialysis) の現状と支援」, 「シンプル PD」, 「高齢腹膜透析患者の在宅医療支援のあり方を考える」, 「献腎登録から腎移植までの支援～東邦大学医療センター大森病院の取り組みをもとに～」, 「腎移植後透析再導入時の支援」

<学会・委員会企画>

「COVID-19 感染を振り返る」, 「TSUBASA PROJECT—透析と性差—」, 「専門医制度の現状と課題」, 「腎代替療法の選択の新しい流れとその評価」, 「2022 年度診療報酬改定に望む」, 「血液浄化に関する新技術検討委員会」, 「腎代替療法専門指導士創設へ向けて」, 「統計調査で見る透析医学 この 10 年」, 「Year in review 2020 Part1」, 「With コロナ時代の災害対策」, 「血液浄化の機能と効率に関する小委員会へモダイアフィル

ターの性能評価」, 「Year in review 2020 Part2」

<企業セミナー>

ランチョンセミナー, スイーツセミナー, イブニングセミナー

<その他>

6月4日(金) 医療倫理講習会

6月5日(土) 医療安全講習会

6月6日(日) 感染講習会

6月4～6日(金～日) 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

※詳しくは総会ホームページをご確認ください。

2) 通常総会

(1) 第66回通常総会開催: 2021年6月3日(木) 16:00～17:30

(2) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催: 2021年6月5日(土)

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催: 2021年5月15日・6月3日・8月・12月・2022年3月

(2) 監事による監査会開催: 2021年5月11日(火)

4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会

学会ホームページの円滑な運営、内容充実を図る。

① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

② コンテンツを見直し、逐次更新する。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会(満生浩司委員長)

① 慢性腎臓病療養指導看護師(平成29年9月から施行)に関する助言と問題点への対策を行う。

② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。

③ 栄養管理士育成事業として、日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成(CKD分野)における助言を行う。

(3) 統計調査のあり方小委員会

① あらたな諸法の整備に適応して、統計調査実施の倫理基盤の確認を行う。

② 統計調査結果の解析、論文化の計画の明確化、会員施設へのインセンティブを検討する。

③ 統計調査委員会と意見交換を行い、統計調査のIT化の方向性を模索する。

(4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会(山下明泰委員長)

① コロナ禍の中における研修事業を休止し、インターネットによる講義の可能を模索する。

② 各国、各施設に対する個人または他の組織による支援活動を支援する。

③ 発展途上国における透析医療に関するコンソーシアム(仮称)の設立を予定していたが、コロナ対応を含め、各国の受け入れ態勢がそろうまでは休止する。

(5) 本学会のあり方小委員会

① 公益社団法人への移行について継続した審議・検討を行う。

② 一般の人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討し公開していく。特に現在重要な

案件である透析専門医に関して日本専門医機構との意見交換を行いながら、認定に向けて検討を進める。

(6) e-ラーニング検討小委員会（久野 勉委員長）

- ① 2021年6月開催の第66回日本透析医学会学術集会・総会における生涯教育プログラムの教育講演から座長・演者の同意を得て、スクリーンアウト方式の動画を収録しコンテンツとする。コンテンツには「医療安全」、「災害」、「倫理」、「感染」を含むように配慮する。
- ② 各演者には試験問題の作成を依頼し、e-テストにより専門医更新の単位認定に利用する。専門医の単位認定は、連続した60分の講演1回または30分の講演2コマを連続して視聴し試験に正答することで1単位を認定、年間5単位、5年間で25単位を上限とする。ただし学術集会に参加してすでに生涯教育プログラムの5単位を取得した者は同年度のe-ラーニングでの単位は認定しない。
- ③ 単位認定を希望する者は認定料3,000円を支払う。運用については専門医制度委員会と適宜意見交換を図る。なお、専門医以外の正会員（専攻医を目指す医師を含む）及び施設会員に所属する医療従事者もスキルアップのための視聴可能とする。配信の開始時期などは本学会ホームページ及び会誌の会告で会員に通知する。

(7) 病気腎移植に関する検討小委員会（酒井 謙委員長）

2017年10月29日 病気腎移植（修復腎移植）が先進医療Bとして厚生労働省に認可された。これに対して、日本泌尿器科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本移植学会の5学会は合同で、外部委員からなる適切な当該医療の検証（外部委員派遣）が必要であるとの声明を出した。申請医療機関からの申請に対して、日本透析医学会は事前検証としての外部委員選定を2018年度に行った。その後の進捗であるが、現在まで先進医療B症例は、当該医療機関から申請されていない。

2021年度においても、申請医療機関からの修復腎移植申請があった場合には、速やかに外部委員を派遣し、レシピエント、ドナーの双方に不利益が生じないように、先進医療を注視していく任を遂行する。

なお、2021年1月に先進医療Bの進捗状況が申請医療機関から報告されたが、実際の申請医療機関からの申請は現段階では未着である。

(8) 会員管理システム業者選定小委員会

納品のあった新規会員管理システムを2021年2月に検収し、稼働開始したため休会とする。

(9) 書籍発行運営委員会（重松 隆委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討する。

以下に示すガイドライン、診療ガイドラインの改訂等に関し、ワーキンググループ立ち上げが2020年度の理事会において承認され、ブックシリーズ1（腹膜透析ガイドライン2019）に続き、計画中である。

ただし、これらの事業は学術委員会との連携が必須である。

- ① 「慢性腎臓病に伴う・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン」
- ② 「血液透析患者の糖尿病治療のガイド2012」
- ③ 「2015年版 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」

6) 学会との連携、協力関係

(1) 日本医学会、(2) 日本医学会連合、(3) 日本医師会、(4) 日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会、(5) 透析療法合同委員会、(6) 内科系学会社会保険連合、(7) 外科系学会社会保険連合、(8) 臓器移植関連学会協議会、(9) 末期腎不全治療説明用小冊子作成、(10) 糖尿病性腎症合同委員会、(11) 登録腎生検予後調査検討委員会、(12) 先行的献腎移植申請検査会、(13) 透析医療に関するグランドデザイン、(14) 日本透析医会との連絡協議会、(15) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力、連携を密にしていく。

2. 財務委員会

平成 20 年 12 月に新公益法人制度が施行され、これに伴い本学会も平成 24 年 9 月 3 日付けをもって、一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成 20 年度改正の新・新公益法人会計基準に則り、新・新基準による経理を実施し、貸借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして、より適切な財務管理を目指す。

以上を踏まえて、税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊、年間 12 冊を発行する。
- (2) Year in Review 2020 原稿の投稿を受け、2021 年和文誌 54 巻のしかるべき号に掲載する。
- (3) 統計調査委員会年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を 2021 年和文誌 54 巻 12 号に掲載する。
- (4) 学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行する。郵送は希望者のみに限定する。
- (5) 年間 1 回を目安として特集号を組む。

2) 公式欧文誌 Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) について

- (1) 2021 年末をもって TAD 誌は公式雑誌ではなくなる。ただし TAD 誌は引き続き Wiley 社により出版継続される予定である。

3) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について

- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で、CC-BY の著作権で引き続き発行する。
- (2) すでに PubMed Central での Index 化の再申請を 2020 年中に行っており、採択の審査結果を期待している。
- (3) 他の検索システム MEDLINE, Science ESCI, web Science への Index 化申請を 2020 年中に行っており、採択審査結果を期待している。
- (4) すでに RRT 誌は下記の 8 学会の公式英文誌となっている。これらの各学会のガイドラインや報告レポートなどを Position Paper として順次出版する。
 - ・ Japanese Society for Dialysis Therapy (JSDT)
 - ・ Japanese Society for Clinical Renal Transplantation (JSCRT)
 - ・ Japanese Society for Peritoneal Dialysis (JSPD)
 - ・ Japan Society for Blood Purification in Critical Care (JSBPCC)
 - ・ Japanese Society of Renal Rehabilitation (JSRR)
 - ・ Japanese Society of Nephrology and Pharmacotherapy (JSNP)
 - ・ Japanese Society for Pediatric Renal Failure (JSPRF)
 - ・ Japan Academy of Nephrology Nursing (JANN)
- (5) すでに採用済の海外からの Editorial Member を Advisory Board Member として引き続き編集業務の関与を依頼する。
- (6) 新規には本邦在住者の Editorial Member 増強が必要な状況であり、採用各学会に人材の推薦依頼するとともに、独自にも Editorial Member を採用増強する。
- (7) 台湾腎臓学会・韓国腎臓学会・日本透析医学会の 3 学会合同シンポジウムが、第 66 回日本透析医学会学術集会・総会に開催される予定である。その各国の講演内容を報告として掲載を交渉する。

- (8) 120 編の投稿を目標とし、本邦以外の国と地域からの投稿促進努力を行う。
- (9) 年間掲載論文の英文の質の向上と統計手法の正確さを追求する。その結果で、アクセプト率の低下も許容する。

4. 学術委員会

- 1) 学会賞・奨励賞の選出
選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。
- 2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議
学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行する。
- 3) 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）
 - (1) Dialysis Therapy, 2020 year in review を第 66 回日本透析医学会学術集会・総会（令和 3 年 6 月）において委員会企画として開催する。
 - (2) 2021 年中に Dialysis Therapy, 2020 year in review を学会誌に掲載するため、各演者の先生に投稿を依頼する。
- 4) 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦委員長）
引き続き第 66 回日本透析医学会学術集会・総会において栄養改善のための介入方法について議論を行うほか、IDPN（透析中の栄養補助）についての標準処方策定を行う。将来的にはこの処方を用いた前向き研究を行う。
- 5) 腹膜透析ガイドライン改訂ワーキンググループ（伊藤恭彦グループ長）
2020 年 11 月に JSdT ブックシリーズ 1 として出版した。また英文化して、RRT に投稿した。これをもって活動を終了する。
- 6) 「2015 年版 日本透析医学会 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」の改訂準備にとりかかる。
- 7) 「一般社団法人 日本透析医学会 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン」の改訂準備にとりかかる。
- 8) 「一般社団法人 日本透析医学会 血液透析患者の糖尿病治療ガイド 2012」の改訂準備にとりかかる。
- 9) 小委員会活動
 - (1) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）
 - ① 日本透析医会、JACE との 3 団体共同「透析排水管理ワーキンググループ（峰島三千男委員長）」：透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い、その成果の啓発を行う。
 - ② ISO/IEC 対策 ワーキンググループ（川西秀樹委員長）：ISO 会議に委員を派遣し、最新の ISO/IEC の動向を把握する。
 - ③ ヘモダイアフィルタの機能分類について引き続き検討する。
 - (2) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）
 - ① 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会に引き続き、第 66 回日本透析医学会学術集会・総会（令和 3 年 6 月）においても、委員会で議論した成果を、血液浄化に関する新技術検討小委員会企画で発表する。今回は AI に関する内容を盛り込んだ新機軸を提案する。
 - ② 委員間でのコラボレーション、および AMED との連携を深め、アイデアの早期実現を加速する。
 - ③ 委員会は年に 2～3 回開催することを原則としてきたが、令和 2 年度はコロナ禍を受けてオンラインで 1 回開催したのみとなった。今年度はオンラインを積極的に活用して、委員会を実施する。
 - ④ 他の学術集会（第 29 回日本次世代人工腎臓研究会（大阪）、第 59 回日本人工臓器学会（東京）など）の実施状況を勘案しつつ、成果の一部の公表に努める。

- (3) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（阿部雅紀委員長）
 - ① 体験参加型セッションの開催
 - ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催
学術集会での開催を目指す，Web を利用した開催も検討していく。
- (4) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）
例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。
- (5) 透析医学用語集作成小委員会（土谷 健委員長）
先の透析医学用語集が平成 19 年度のものであり，新しい用語・古くなった用語等もあるので，基本的に用語集を改訂する方針とし，実際の作業を開始する。
関連学会として，「日本腎臓学会」，「日本アフェレシス学会」及び「日本急性血液浄化学会」からの委員に参加を仰ぎ，「日本腹膜透析医学会」に可能なら委員の派遣を依頼する。日本腎臓学会用語委員会と連携して用語集の改定に向けて活動する。

5. 統計調査委員会

- 1) 2020 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告
 - (1) 2020 年調査結果を 2021 年学会誌 54 巻 12 号に，英文報告書を RRT 誌に掲載する。
 - (2) 本学会和文，英文のホームページに調査結果を掲載する。
 - (3) 2020 年調査結果を統計調査データベース，WADDA システム（自動集計システム），学術研究用データ切出しシステムに取り込む。
 - (4) 調査協力非会員施設には，「わが国の慢性透析療法の現況 2020 年 12 月 31 日現在 CD-ROM 版」を作成し，配布する。
- 2) 2021 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施
 - (1) 2021 年調査の新規調査項目を設定する。
 - (2) 2021 年の調査計画について倫理審査を依頼し，承認後 UMIN に公開する。
 - (3) 全国の透析施設に対して 2021 年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施する。
- 3) WADDA システム，学術研究用データ切出しシステムの改善
 - (1) WADDA システム，学術研究用データ切出しシステムについて，より利用しやすいよう一部改善を行う。
- 4) 統計調査データベース作成の改善
 - (1) データベース作成の際の名寄せ処理の精度を更に改善するため，一部システム変更を行う。
- 5) 統計調査データを活用した研究活動の推進・論文文化
 - (1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために，現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文文化を行い，日本人のエビデンスの構築を行い，将来のガイドライン作成等に備える。
- 6) レジストリ国際協調への課題の明確化（継続事業）
 - (1) ISN 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR へ参加する。
 - (2) 国際レジストリ協調に求められる要件の明確化，JRDR の将来の改修方針の明確化する。
- 7) 第 66 回日本透析医学会学術集会・総会における以下のセッションの開催
 - (1) 統計調査委員会企画：「統計調査で見る透析医学 この 10 年」
- 8) 国内・国際協力の推進
 - (1) 日本透析医会を始めとした他学術団体，さらには United State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association/ European Dialysis Transplantation Association 等の海外レジストリと連携し，データ供与や解析を行う。
- 9) 英語版ホームページの充実（継続事業）

- (1) 透析医学会の統計調査の海外への発進力を高めるために、統計調査のホームページを充実させる。
- (2) 英語版ホームページにはこれまでに発表された論文一覧などを提示する。

10) 会員インセンティブの充実

- (1) 統計調査への理解を深め、会員のニーズを知るため地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
- (2) 帳票出力システムの利用を推進する。

解析小委員会

- 1) 各小委員は既存データベースを用いて、慢性透析医療の将来に必要とされるさまざまなテーマについて解析を行い学会報告、論文化を行う。
- 2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ、委員会に審議を依頼する。
- 3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し、相互にブラッシュアップする。

6. 専門医制度委員会

日本透析医学会専門医制度委員会は、血液浄化療法に関連する医学と医療の進歩に即応した優秀な医師の養成をはかるとともに、透析医学の向上発展をうながし、国民の福祉に貢献することを目的として活動し、よりよい専門医制度の実施を目指すための事業計画を策定した。透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることを目指して、専門医制度整備指針に準じて、さらなる専門医制度の改訂を検討し、ヒアリングに備えている。現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する。

1) 専門医制度委員会

- (1) 血液浄化法に関する生涯教育の一環として、全国を細則第2条の10地区に分け、年1回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集会を推薦し、専門医等認定事業経費から助成金を支給する。
- (2) 第66回日本透析医学会学術集会・総会会長特別企画「日本専門医機構による透析専門医認定の現状と問題点」を実施し、日本専門医機構による制度説明、透析専門医の基本領域として申請依頼している総合診療専門医、泌尿器専門医、循環器専門医（かつ透析専門医）、透析専門医科が議論し、会員に現状と問題点を報告し意見を聞く。

なお、日本腎臓学会から、「当学会の専門医制度関連の関係者複数名に依頼いたしました。しかしながら、いずれも参加が困難であるという返事で、責任を持って講演できる適任者を選任できません。」との回答があり、腎臓専門医については見送りになった。

- (3) 各小委員会で整備した内容について検討する。

・研修プログラム小委員会

研修カリキュラムの改訂に伴い、専門研修プログラム第4版を作製する。

・カリキュラム小委員会

基本領域専門医と連携し、専門研修カリキュラム第4版を作製する。

セルフトレーニング問題の作成を行う。

eラーニング問題のブラッシュアップを行う。

会員管理システムが新しくなった時点で、セルフトレーニング問題のweb化を検討する。

・専門医認定小委員会

専門医と指導医の新規認定と更新を行う。

専門医認定制度に係る諸問題（適正な専門医数、専門医の地域偏在）をワーキンググループで検討を継続する。

ホームページに掲載する症例要約プログラム集の改訂を行う。

・専門医試験小委員会

2020年度専門医試験を2021年4月25日に実施する。新型コロナウイルスの複数の変異型株により、感染者数が増加している地域もあり、適切な感染対策を行い、都道府県をまたぐ移動制限が発令された場合にはその時点で対応策を検討する。

2021年度申請者に対する試験

東京と神戸の2会場を確保した。具体的なことは、4月25日の2会場での試験を実施したうえで、再検討する。なお、2022年度の実施会場数は、2021年9月に判断する。

専門医試験プール問題約700題の中で、優良でない試験問題（優良の定義：正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上）をブラッシュアップする。また、新規に問題を作成し、写真や図表問題も多くなる。

・施設認定小委員会

認定施設と教育関連施設の新規認定と更新を行う。

機構専門医制度の承認がまだ得られていないが、今後の承認時に速やかな加入ができるよう専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成を進める。現在の調査時点では約2/3の施設が属しておらず、機構専門医制度に加盟できた際に会員に不利益が出る可能性があることから形成を急ぐ。

- 2) 「倫理の問題」については毎年啓発しており、専門医認定の口頭試験で受験者の倫理観を確認する予定である。
- 3) 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、本学会専門医の更新を目指す医師を対象に「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。なお、専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として実施している。なお、問題は学会誌には掲載せず、応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し問題・正解・解説は9号に掲載する予定である。
- 4) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口答試験問試験の3者の総合的な判断で行い、可否を決定する予定である。
- 5) 専門医認定（専門医認定試験）と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新の公示・受付等については下記の通りである。

(1) 2022年度 第32回 専門医認定試験

筆記試験および口頭試問試験 10月17日（第3日曜日）

試験会場 関東会場 都市センターホテル（東京都）
関西会場 神戸ポートピアホテル（兵庫県）

申請受付会告 2021年3号～5号

申請書類受付 2021年6月1日～6月30日

(2) 認定期限2022年3月31日までの専門医認定更新

更新申請受付会告 2021年8号～10号

更新申請書類受付 2021年11月1日～11月30日

(3) 2021年度 第32回 指導医認定

申請受付会告 2021年10号～12号

申請書類受付 2022年1月6日～1月31日

(4) 認定期限2022年3月31日までの指導医認定更新

更新申請受付会告 2021年9号～11号

更新申請書類受付 2021年12月1日～12月28日

(5) 2022年度第31回認定施設・教育関連施設認定

申請受付会告 2021年4号～6号

申請書類受付 2021年7月15日～8月15日

(6) 認定期限2022年3月31日までの認定施設・教育関連施設の認定更新

更新申請受付会告 2021年4号～6号

更新申請書類受付 2021年7月15日～8月15日

7. 国際学術交流委員会

- 1) 第66回日本透析医学会学術集会・総会において、新型コロナウイルス感染症の影響が想定されるため、国際学術交流委員会として下記のシンポジウムのみを行い、海外からの演者はオンラインもしくは音声ありパワーポイントスライドで対応いただくこととする。海外からの一般演題の公募は行わず、Farewell partyも開催しない。

I. シンポジウム

COVID-19 in dialysis patients with and after COVID-19

Chairs : Munekazu Ryuzaki & Yoshitaka Isaka

- ① Clinical care of patients with end stage kidney disease and COVID-19 : Michael Ross (NY)
- ② AKI in COVID-19 : Kent Doi (Japan)
- ③ Current status and countermeasure for COVID-19 in dialysis patient : Kan Kikuchi (Japan)
- ④ COVID-19 Infection in Korea : Jang-Hee Cho (Korea)

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第6回評議員選挙

日本透析医学会定款第20条、21条、22条及び日本透析医学会定款施行細則第14条、15条、16条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第6回評議員の選出を行う。

- 1) 評議員選出規則第3条に基づき、選挙は全国統一地区と7の地方区に分けて行う。
- 2) 同規則第6条に基づき、定数220名の評議員を選出しその内80名は全国区、140名は地方区とする。
- 3) 同規則第7条に基づき、令和3年会誌10号に選挙の公示をし、10月下旬に電子公告を行う。
- 4) 同規則第9条第1項に基づき、令和3年10月1日現在の有権者名簿を、会誌10号に公示し、10月下旬に電子公告を行う。
- 5) 立候補者しようとする者に、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率）並びに立候補者の得票及び得票率を開示することを前もって周知する。
- 6) 同条第2項に基づき、11月20日までに有権者名簿について、異議の申し立てを受ける。
- 7) 同規則第11条第1項に基づき、11月20日までに立候補の届け出を受ける。
- 8) 同条第4項に基づき、12月1日までに立候補の辞退を受ける。
- 9) 同規則第12条に基づき、候補者の氏名を令和3年会誌12号に公示し、12月下旬に電子公告を行う。
- 10) 同規則第13条に基づき、令和4年2月15日に投票を締め切る。
- 11) 同規則第16条に基づき、投票終了後ただちに開票立会人のもとに、開票を行う。

- 12) 同規則第 21 条に基づき、当選者が決定した場合、当選者に通知し、会誌公示し、電子公告を行う。また、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率）並びに立候補者の得票数及び得票率を開示する。
- 13) 同規則第 22 条に基づき、選挙結果発表日より 14 日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受ける。

9. 保険委員会

2022 年の診療報酬改定に向けて内科系社会保険連合（内保連）、外科系社会保険連合（外保連）、日本腎臓学会、日本小児腎臓学会、日本アフェリシス学会、日本急性血液浄化学会、日本腹膜透析医学会、日本透析医会と提案項目の検討を行い、内保連および外保連を通じて厚生労働省に提案する。

日本透析医学会保険対策ワーキンググループを保険委員会内に設置しており、将来の透析医療の診療報酬を考え、どのようにエビデンスを構築していくかまで視野を広げ討論している。

今回の改定では対応を行わないとの評価をうけた下記の 4 項目については重要であるため 2022 年度改定でも内保連に提案し、認められるようにするために活動を継続する。

- ① 血液透析アクセス日常管理加算
- ② 在宅血液透析管理加算（多職種による）
- ③ 在宅透析患者管理における遠隔管理加算
- ④ 透析患者導入期と転入期の HIV 抗体検査

また外保連に対しては、透析用カテーテル留置術は診療報酬上は注射の区分（G コード）に属しており、DPC 病院では請求できていなかった。その点を改変すべく学会として、長期留置カテーテルと短期留置カテーテルのタイムスタディーを施行し、外保連から厚生労働省に申請し、手術区分（K コード）に再分類され DPC 病院でも請求可能になるよう活動をする。具体的には下記の 2 種を手術区分として申請している。

- ① 経皮的体外循環補助装置設置術（短期型）
- ② 経皮的体外循環補助装置設置術（カフ型）

2021 年第 66 回日本透析医学会学術集会・総会の保険委員会企画の内容は「2022 年度診療報酬改定に望む」と題して、下記のような項目で討議を予定する。

- ① 2022 年度診療報酬改定に望む～診療報酬改定とは～
- ② 2022 年透析診療報酬改定の課題
- ③ バスキュラーアクセス（VA）日常管理加算新設に向けた取り組み
- ④ 血液透析用カテーテル留置術
- ⑤ どうなる導入期加算
- ⑥ 保険委員会の取組み

10. 倫理委員会

- 1) 日本透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 日本透析医学会として対応すべき研究倫理に関する課題に対して、随時、研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱をするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

11. 腎不全総合対策委員会

当委員会は、改訂された政府の腎疾患対策検討会の報告書において、従来からのCKD発症予防、重症化の予防のみならず、透析・移植患者のQOLの改善も目標として加わったことを考慮して、活動範囲を広げてきたが、本年度から、腎代替療法治療選択そのものに関する内容が別部署に移ることも考慮し、方針に修正を加えることとした。具体的には、透析患者のQOLと血糖管理に関する研究は、継続して進めるとともに、保存期から透析期への移行する時期の管理がアクセスの作成も含めてどのようにになっているか、また腎代替療法を選択しない場合の保存的腎臓療法の実態を明らかにする。

1) 透析患者 QOL に関する包括的検討

近年、患者中心医療の重要性が増しており、透析医療の評価に際しても、合併症の管理や生命予後の改善といった客観的指標に加えて、今後は患者自身が評価するQOLといった主観的指標も重視されるものと考えられる。そこで、real worldでの透析患者QOL向上を目指すために、患者が苦痛に感じ、QOLを低下させている具体的な症状や要因を明らかにし、それらを標準化された尺度を用いて評価するために、(1)透析患者を対象にした国内のQOL評価研究の実態確認、(2)透析患者QOLを低下させる要因の確認を行い、(3)個別の症状に対する評価法(尺度)を提唱するという事業を企画した。すでに昨年度中に、この内容に関するアンケートの送付、回収が終わっているので、本年度は、結果の解析を進め、論文化を目指す。

2) 糖尿病透析患者の血糖管理の状況

原因疾患としては、糖尿病性腎臓病からの新規透析導入患者数が第1位であるだけでなく、透析の臨床において、糖尿病合併患者が増加している。保存期の糖尿病合併CKD患者の場合、糖尿病医と連携して血糖コントロールが行われていることは多いが、透析患者では、血糖管理を全て糖尿病医に委ねるのは困難である。そこで、糖尿病透析患者の血糖管理状況を把握する目的で、「誰(透析医 or 糖尿病医?)」、「何を指標に(随時 or 空腹時? 血糖, HbA1c or GA?)」、「どう管理しているのか(糖尿病治療薬の種類とコントロール状況)」に関する実態調査を計画した。すでに、アンケートの送付は済んでおり、本年後は回収、データ整理と解析を進め、論文化を目指す。

3) 移行期におけるまずアクセスの準備状況に関する調査

腎代替療法を開始するには、適切なアクセスが確保されていることが必須であるが、この準備は、腎代替療法選択の時期、作成者の有無、施設での代替療法の選択肢、患者の状態など、多くの因子に左右される。そこで、最良の移行期の診療パターンを明らかにすることを目的に、透析医学会教育施設に対して、保存期から導入初期のアクセスの状況を調査する。

4) 保存的腎臓療法の実態調査

腎代替療法の選択肢に、導入せず保存的療法を行うことが明記されてきた。この腎代替療法の内容については、その目的、実施者、対象患者において、さまざまなバリエーションが存在するものと推定される。そこで、まずわが国における実態を調査するとともに、その具体的な内容を提示することを目的にアンケート調査を行う。具体的には、保存的腎臓療法(CKM)ないし、包括的保存的ケア(Comprehensive Conservative Care, KDIGOが採用した用語)という用語をしているか、CKMの具体的な方法をしているか、自施設で透析導入をせず、CKMを行った、あるいは維持透析患者に対し、透析を見合わせ、CKMを行った経験はあるか、腎臓・透析施設以外の一般開業医や訪問診療の医師に対し、末期腎不全患者に対し腎臓・透析施設に紹介しているか、あるいは、患者・家族と相談し、自分で最後をみとっているか、それらの割合など、CKMを行っている施設に対しては、具体的な例や治療法などについて調査する準備を始める。

5) 学術大会における委員会企画

6月に開催予定の第66回日本透析医学会学術集会・総会において、「腎代替療法の選択の新しい流れとその評価」という委員会企画を予定している。

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

- (1) 透析医療における安全管理, 災害と透析医療をテーマとした学術活動を行う.
- (2) 医療安全, 災害対策に関して, 日本透析医会, 日本腎臓学会, 日本腎不全看護学会, 日本臨床工学技士会などの関連団体と緊密に連携する.

2) 災害対策小委員会 (山川智之小委員長)

- (1) 第66回日本透析医学会学術集会・総会(2021年6月4日～6日, パシフィコ横浜)において, 災害に関する危機管理委員会企画を行う. テーマは「With コロナ時代の災害対策」とし, 以下の内容で行う. さらに, その内容を委員会報告としてまとめて透析会誌に掲載する.

司会: 鶴屋和彦, 山川智之

演者・演題

- ① 菊地 勘 (下落合クリニック (日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会新型コロナウイルス感染対策合同委員会委員長)) COVID-19 対策を踏まえた災害支援のあり方
 - ② 大石和久 (浜松医療センター腎臓内科) 災害対策・感染対策における LINEWORKS の活用
 - ③ 西村典史 (如水会嘉島クリニック (熊本県臨床工学技士会副会長)) 令和2年7月豪雨について
 - ④ 浦田浩史 (医療法人朝日野会朝日野総合病院 (臨床工学科副科長)) 熊本地震から5年を振り返って
 - ⑤ 赤塚東司雄 (赤塚クリニック (日本透析医会災害対策委員会副委員長)) 異常気象と透析医療の災害対応
 - ⑥ 山川智之 (仁真会白鷺病院 (日本透析医会災害時透析医療対策委員長)) 厚生労働科学研究「慢性腎臓病患者に特有の健康課題に適合した災害時診療体制の確保に資する研究」の意義と課題
- (2) 統計調査委員会へ委員を派遣し, 災害の透析患者の病態, 生命予後に与える影響について解析する.
 - (3) 2011年末に統計調査で行った透析医療の災害対策に関する対応状況の調査を基に, 2021年末に再調査をする方向で統計調査委員会に要望する.
 - (4) 日本透析医学会の理事, 危機管理委員会, 統計調査委員会, 地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し, 災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する.

3) 医療安全対策小委員会 (満生浩司小委員長)

- (1) 医療事故調査報告制度に協力団体として, センター調査などを担当する.
- (2) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し, 必要に応じて委員の更新を行う.
- (3) 厚生労働省などから報告される薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で, 透析医療に関わるものについて, 日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図る.

13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会における医学研究の利益相反 (COI) に関する指針」に基づき, 会員の利益相反状態に関連した以下の事項について実施する.

- 1) 会員が総会等で発表する利益相反状態に関する情報開示
- 2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
- 3) 本学会の役員 (理事長, 理事, 監事), 総会会長, 委員会会長, 特定の委員会並びにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
- 4) その他, 会員に関連した利益相反状態や, 自己申告内容に関する管理を必要に応じて行う.
- 5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討, 審査請求に関する判断マネジメントを行う.
- 6) 取り扱い細則の一部改正において, 「スポンサー」, 「医学研究 (臨床試験, 治験を含む)」, 「医学研究責任

者」などの定義を改め、さらに研究費の具体的明示（治験、産学共同研究、受託研究費、奨学寄附金、寄附講座）を必要として、COI 申告書の書式訂正を行った。本年度はこの書式に則り COI 開示を進めていく。また第 6 条ではランチョン・イブニングセミナーなどの企業の主催共済においても、演者の COI 開示を義務付けたため、本年度はこの部分も強化、周知を徹底していく。

- 7) 取り扱い細則の一部改正における第 9、第 10 条：本学会が作成する臨床ガイドラインについては、作成ワーキンググループのメンバー（外部委員を含む）が中立性と公明性をもって作成業務を遂行するために、問題となる利益相反状態の調査を勧告する。作成過程の経過中、その変動が生じたときには、理事長報告を義務付け、周知していく。本学会の統計調査に基づく臨床研究についても同様に問題となる利益相反状態の調査を勧告していく。
- 8) 海外の招請講演演者、論文筆者にも同様の COI 申請が必要と考え、COI 申告書の英文表記版を完成させた。この書式を用いて、海外招請演者、論文著者に対して、勧告を行っていく。

文献

日本透析医学会：日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針。2011：
<http://www.jsdt.or.jp/jsdt/1370.html>

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会、日本腎臓病薬物療学会、日本腎不全看護学会、日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会、女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況、展望についての寄稿、編集を進める。

2) 小委員会

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会、日本腎臓病薬物療学会、日本腎不全看護学会、日本病態栄養学会のそれぞれの働き方改革について各学会の経緯と現状と検討する。第 66 回日本透析医学会学術集会・総会の議題とする。あるいは、学会誌報告とする。

(2) 女性医師育成小委員会

I. 「TSUBASA PROJECT」

第 66 回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画「TSUBASA PROJECT」を開催する。発表した内容は論文化し、日本透析医学会ホームページに掲載するとともに、日本透析医学会雑誌あるいは RRT へ投稿する。第 6 回「TSUBASA PROJECT」を企画する。企画内容は以下に示す。

第 6 回「TSUBASA PROJECT」について

研究課題：透析患者の Gender に関する研究

研究期間：2 年間

募集形式：公募、年次募集

募集人数：最大 4 名

公募期間：2021 年 6 月 1 日から 2021 年 9 月末日

応募資格：日本透析医学会の女性正会員、応募時点で他の研究助成を受けていないこと。

協力者：参加希望者は研究協力者（主に、参加者施設の指導医師）を指名し、研究協力者と共に課題研究ができる。

参加者選択：女性医師育成小委員会委員

研究支援：

① 女性医師育成小委員会委員，協力者の研究指導

② 一人一件あたり 50 万円までの研究助成を行う。

「TSUBASA PROJECT」事業として下記の科目で 2021 年度概算要求する。

なお，この概算要求経費は個々に研究費として配分はしない。

概算要求経費の詳細

通信運搬費：委員から参加者へ通信費，アンケートの配付・回収

委託費：検査測定，翻訳・校正費，アンケートの解析

諸謝金：専門的知識の提供

支払負担金：研究成果発表費用

「TSUBASA PROJECT」の公報について

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し，第66回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をする。ポスター作成費は 2021 年度概算要求する。

II. 2021 年度透析専門医勤務状況—透析療法領域における男女共同参画実態調査—

アンケート調査結果を第 66 回日本透析医学会学術集会・総会の委員会企画「TSUBASA PROJECT」において発表し，学会誌に掲載する。

15. 感染対策委員会

2020 年 6 月 11 日の通常総会にて常置委員会として感染対策委員会の設立が承認され，8 月 20 日から活動が開始された。

日本透析医会と日本腎臓学会との新型コロナウイルス感染対策合同委員会での活動を継続し，透析患者での感染防御対策を周知し，感染拡大阻止から感染収束を目指し活動する。その中で，COVID-19 の治療実態調査を行う予定。

その他，透析施設での感染対策として本邦で汎用されている「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（2020 年 4 月改訂）」に関し，改訂等において当学会として積極的に貢献していく。

2020 年度まで継続活動していた感染調査小委員会から引き継ぎ発足した当委員会のため，感染調査小委員会の機能を継続する。具体的には院内感染などの集団発症が発生した時に，関係者の協力を得て機動的に対応するとともに，感染症にかかわる諸問題が発生した場合に迅速に対応する。また，今後発生頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。

2021 年第 66 回日本透析医学会学術集会・総会の感染対策委員会企画の内容は「COVID-19 感染を振り返る」と題して，下記の項目で 3 名の海外からの演者を招聘し 180 分間の討議を予定する。

① COVID-19 Overview

② ニューヨークにおける COVID-19 の爆発的感染拡大とその対応～第一線の臨床医の視点から～

③ ベルギーでのパンデミック～日本との違いを考える～

④ Impact of COVID-19 on Kidney Proximal Tubule Function and its Clinical Relevance

⑤ 日本における透析患者の COVID19 感染状況と治療成績

⑥ 透析施設での COVID-19 の感染対策とその課題

⑦ 広島県における COVID-19 からの報告

⑧ COVID-19 に対する PMX-DHP の治療経験について

⑨ COVID19 再流行・新興感染症にどう備えるか？

⑩ 総合討論